

参考資料 4

函土企第 414 号

平成 12 年 / 月 5 日

各市町長 様

(下水道事業担当)

函館土木現業所長

管路施設（開削）における掘削幅算出方法について

日頃より当所の事業推進につきましてご理解とご協力を頂きお礼申し上げます。

さて、標題について公園下水道課長より通知がありましたので、今後の設計に留意するよう関係職員に周知をお願いします。

(企画調整室技術指導係)

公下第 5104 号
平成11年12月27日

各土木現業所長 様
(企画調整室)
(道路建設課)

公園下水道課長

管路施設（開削）における掘削幅算出方法について（通知）

このことについては、平成11年度建設省下水道用設計標準歩掛表が改定され、その算定方法について、北海道下水道技術委員会で検討の結果、この度、「掘削幅算出方法（案）」を作成しましたので送付します。

つきましては、次のように適用しますので、今後の設計において十分留意願います。

なお、貴管内関係市町村へも通知願います。

記

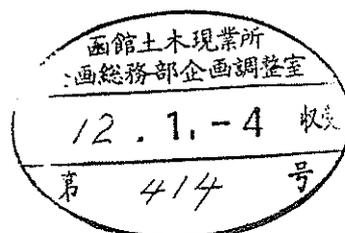
1 適用月日について

平成12年10月1日以降に入札する本工事から適用。

2 その他

掘削幅算出方法（案）については、北海道下水道技術委員会地区ブロック会議（2月）で内容を説明します。

下水道技術係
TEL (011)231-4111
内線 29-623
FAX (011)232-2618



掘削幅算出方法（案）

北海道下水道技術委員会

掘削幅の算出

下記①・②・③の式より必要掘削幅を求め、いずれか大きな値を掘削幅とする。
(別紙参照)

① 管吊卸しに必要な掘削幅

$$\text{掘削幅} = \text{最大管外径} + \text{余裕幅(両側分150mm)} + \text{腹起材幅} + \text{土留材厚}$$

注1：最大管径とは、ソケット(受口)を有する管材においては、ソケット(受口)部の外径とする。

② バックホウ掘削に必要な掘削幅

$$\text{掘削幅} = \text{バケット幅} + \text{余裕幅(両側分200mm)} + \text{腹起材幅} + \text{土留材厚}$$

③ 管布設作業に必要な掘削幅

$$\text{掘削幅} = \text{管外径} + \text{余裕幅(両側分600mm)} + \text{土留材厚}$$

注2：建込み工法の場合、掘削幅は土留材の外側とする。
(軽量鋼矢板・建込簡易土留・木矢板)

注3：打込み工法の場合、掘削幅は土留材の中心線とする。
(鋼矢板)

備考 土留材について

軽量鋼矢板、鋼矢板(Ⅲ型)は白本による。

建込簡易土留は、建込簡易土留協会(積算マニュアル)による。

腹起し材について

軽量鋼矢板は木製、鋼矢板は鋼製(H-300)とした。

木矢板については参考として記載。

なお、土留材、腹起し材において標準寸法として記載しているので、構造計算のうえ、使用すること。

必要掘削幅(補正值)は2捨3入7捨8入にて50mm単位で補正しています。